

道の駅「にちなん日野川の郷」いよいよオープン

道の駅「にちなん日野川の郷」(日南町生山)が、4月22日(金)にオープンします。この駅は、道の駅「奥大山」(江府町佐川 平成27年4月開設)に次いで郡内2番目の道の駅となります。

どんな駅になるの？

現在、日南町が進めている「コンパクト・ヴィレッジ構想」の中核として整備され、人・もの・サービス・情報を集め、それらを結びつけて効率的に展開・発展させることで、「新たな地域づくりの場」を創出しようとするものです。

その企画内容は、国土交通省から効果的な取り組みが期待できると高く評価され、「重点道の駅」(平成26年選定、全国35箇所のひとつ)に認定されました。

どんな施設があるの？



農産物直売所とレストラン、農産物加工場などの建物4棟と駐車場(83台収容)で構成。

このうち、主要施設を日南町が整備、トイレ・情報提供施設と駐車場の一部を鳥取県が整備するという、町と県のコラボレーション(いわゆる「一体型」)により実施しました。

どんな材料でできているの？

木材の全てが、日南町産のスギ・ヒノキを町内の工場加工したもので、「木のまち日南」を象徴する建物です。((株)オロチ…LVL※1、(株)ウツ



道の駅内部の構造材(LVL)

ドカンパニーニチナン…無垢製品)

また、木材は環境等に配慮したFSC※2認証材で、日

南町の「森林資源を循環させながら、適切な森林管理を行っている林業事業者の支援、ひいては森林保全を推進する」という取組をPRします。



軒部分はヒノキの無垢製品を使用

※1…単板を繊維方向に揃えて積層、接着した木質軸材料。
※2…森林の管理や伐採が環境・地域社会に配慮して行なわれていることを、信頼できるシステムで評価・認証する国際認証制度。日南町の森林面積3万haのうち、2万haがFSC認証林。

運営の特色は？

ドライブインの役割のほか、地場産業を創出し、地方移住や障がい者雇用等の福祉支援の拠点機能も担う「まちの駅」という側面も持っています。地域の強みである農産品や、未利用食材を活用した商品開発、町内産木材を活用した木工品や家具の製造を行い、道の駅を拠点として販売と全国に向けた情報発信を行うことで、広く町外から人の呼び込みを図ります。

更に、環境に配慮したまちづくりを進めるため、全国初の取り組みとして「カーボンオフセット道の駅」を展開します。これは、全商品に1円上乗せし町内の森林整備に充てるといふ、林業のまちにふさわしい独自の運営スタイルです。また、道の駅を中心に環境に優しい電気自動車の巡回バスを運行し、観光客の周遊性を高めるとともに住民にも便利な公共交通とします。

第61回鳥取県植樹祭の式典等が、5月29日(日)に道の駅「にちなん日野川の郷」を中心に開催されます。皆さんぜひご参加ください！

問 | 日野振興局 農林業振興課 電話:0859-72-2018 FAX:0859-72-2125
日野県土整備局 道路整備課 電話:0859-72-2066 FAX:0859-72-0400

日野郡中山間営農ネットワーク協議会を発足

日野郡では、平場に比べて条件不利地が多く、営農において中山間地特有の問題を抱えています。これまでは、集落単位など単体地域で問題解決に向けて取り組んできましたが、それだけでは解決しないこともあります。

そのため、地域や営農組織がお互いに知恵を出し合い、協力して解決に繋げていくために中山間営農ネットワーク協議会を発足します。

この協議会では、先進地視察や意見交換会などの全体活動や、個別の地域同士を結びつけ交流を促進する活動などを想定しています。

日野農業改良普及所や鳥取西部農業協同組合などが郡内の集落営農組織や地域の中心となる大規模経営体などに加入を勧めており、発足式は農作業が一段落する時期に予定しています。(1月26日に開催された日野郡集落営農ステップアップ研修においても参加者にご案内しています。)

問 | 日野振興局 日野農業改良普及所 電話:0859-72-2028 FAX:0859-72-2090

地域営農でお困りごとを抱えていたり、他地域と連携を進めていきたいと考えている世話役・リーダーなどは、気軽にお問い合わせください。

日野郡中山間営農ネットワーク協議会

<活動内容>

- ・連絡先リスト及び会員組織紹介カードの作成、共有
- ・年1回程度の視察研修
- ・交流会、意見交換会の実施

<運営体制>

- ・事務局 鳥取西部農業協同組合 営農部営農企画課
- ・会費 2,000円程度 / 組織
- ・役員3名程度(各町1名)、規約作成

モミサブローによる白ねぎの排水対策

白ねぎ栽培では排水の悪いほ場に植え付けると、根傷みによって生育が抑制され、土壌病害の発生も多くなり、収量が低下してしまいます。そのため、ほ場の排水を良くすることは栽培上、非常に重要なポイントとなります。

日南町の吉川徹さんは、これまで額縁明きよや、サブソイラ(耕盤を破碎する機械)による耕盤破碎などで、白ねぎ作付ほ場の排水対策に取り組んできました。しかし、それでもなかなか満足いく排水効果が得られないため、平成27年に疎水材心土充填機(商品名:モミサブロー)を新たに導入しました。モミサブローは、サブソイラで耕盤破碎しながら、出来た溝に粉を充填することで、みず道を確保する機械です。

吉川さんは、「これまでよりも雨の後の排水が良くなり、生育のムラもなくなった。」とその効果を感じていました。



モミサブローをセッティングしたトラクター



未施工のほ場 モミサブロー施工のほ場 ※いずれも H27.8.26 撮影 (台風通過後)

問 | 日野振興局 日野農業改良普及所 電話:0859-72-2026 FAX:0859-72-2090